

会議録

会議の名称	西東京市図書館協議会 平成24年度第2回臨時会
開催日時	平成24年11月15日（木曜日）午後3時から5時まで
開催場所	田無公民館会議室
出席者	委員：小西委員、谷関委員、富川委員、吉田委員、服部委員、鈴木委員、大澤委員、橋本委員 事務局：奈良館長、中村副館長、吉野庶務係長
傍聴者	1名
議題	1 研修報告について 2 電子書籍について 3 その他
会議資料の名称	1 千代田区Web図書館について 2 多摩デポ通信 第24号 3 平成23年度 西東京市図書館事業概要
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>○会長： 図書館協議会第2回臨時会を始めさせていただきます。最初に研修報告について、館長からお願いします。</p> <p>館長： 11月6日に千代田区立図書館に委員3名と事務局2名で視察に行ってきました。民間3社の指定管理で運営していて1社で運営しているのとは違うこと、また、昼間の人口が85万人で夜間が4.9万人と、西東京とは異なる条件での運営となっています。</p> <p>5つのコンセプトを基に都市型の図書館を目指している、貸出中心ではなく、問題解決の支援等に力を入れている、千代田Web図書館で電子書籍を扱い、その扱い方をセミナーにしている、近隣の出版社と連携し、展示会、講演会、講座を行っている、大人向けの活動が多い図書館であり、指定管理としては成功していると思います。</p> <p>○委員： 初めて行ったのですが、建物の10回にあり、大人向けで子供1人では行きにくい</p>	

と感じました。大きく2つのスペースに分かれている。1つにはコンシェルジュがいて色々な質問に答えられるようになっています。区民の書齋ゾーンがあり、一般的な書物と本と街の案内所があります。棚の高さは160センチメートル程度で全体が見渡せるようになっています。もう一つは、ビジネス的な発想ということで無線LAN、端末等が整備され、学校・幼稚園には専任の方がいておはなし会を行っている。全体的に使い勝手が良くサラリーマンの利用が多い。図書館評議会というものがあり、図書館の運営の外部評価を主に行っている。保育室では子供を有料で預かっています。

○委員：

感想ですが、子供室は大変立派でしたが、お子さんはいなかった。

ここに来る方は本当に目的を持ってくる方が多いと思いました。人口比も違うので、西東京とは運営方法が異なると思いました。

○会長：

私たちが、描く図書館とは全く違うものであって、ビジネスラインの中にある。その実地とコンセプトが非常にマッチしています。地元の古本屋街と大変連携が上手くできています。コンシェルジュの方は大変優秀です。電子書籍について驚いたのは、参考書類が多く置いてあり、ビジネスマンが多いので有効であると感じました。施設は狭い場所なのですが部屋が有効に使われています。指定管理が成功している少ない例の1つであると感じました。

○館長：

参考ですが、西東京市中央図書館の蔵書数が約23万冊で、千代田が23年度で14万6千冊です。図書割合は3類の次に9類が多い。貸出数ですが、中央図書館が63万4千で千代田が14万6千です。中央図書館は貸出中心の図書館であって、この数字を見る限り、全くタイプの異なる図書館であるといえます。

○会長：

何か質問ありますか。

○委員：

お話し会の専任の10人というのは、ボランティアなのですか、何に対しての専任なのでしょうか。

○委員：

委託を受けた指定管理会社の社員であり、学校専門の職員です。

○会長：

次に電子書籍についてお願いいたします。

委員：

1 電子書籍の現状

現在、電子書籍がどのような現状かまとめておく必要がある。

2 国・自治体の取組、政策

審議会、政策として、どうなっているか整理しておく必要がある。

3 公立図書館における取組

おそらく、20か所くらいで取り組んでおり、皆、試行段階であると思われるが、そのような事例を把握しておく必要がある。

4 導入をめぐるメリット・デメリット

公立図書館で導入するメリット、デメリットの整理をしておく。

地域資料の整理を行う。メリットとしては、利用に障害のある方にとっては有効なものではないか。一方、市民の方の多くは読書に関しては本だと考えている方が多いと思う。西東京としては、奇をてらったサービスをする現状ではないのではないか。

5 西東京市での対応

1. 電子化

2. サービス

行政文書の電子化に取り組んでいくことは必要である。

実際のサービスをどうするのかということですが、どこでも試行的なサービスしか行われていない現状であるので、大規模なシステムについて考えるのではなく、地に足の着いたサービスは何があるのか考えていく必要がある。

○館長：

最初にお願ひした提言に基づいて、意見をお願ひしたいと思います。

委員：

4と5を議論の対象に絞って考えていけばよいのではないかと。電子書籍サービスに何を期待するのかしないのかという形でメリット、デメリットを考えていく。5についてはある程度すり合わせながらやらなくてはいけない。

委員：

地域資料は、担当している方の問題意識等はあるのですか。

館長：

資料を電子化として残していく要望はあると考えているが、保存資料の電子化については費用対効果の問題があります。

委員：

現在ある地域資料の電子化は、現場では必要であると考えているのですか。

館長：

担当には電子化して公開したいという考えがあります。資料の状態の悪いものもあり資料の価値も調べていないので、電子化する前に行うことがあります。

委員：

電子化することにより市民がどのようなサービスが受けられるということが重要である。

会長：

電子化によるメリット、デメリットに対する意見はありますか。

委員：

古い雑誌等は国会図書館では電子化されて見られるのですが、このようなものが自宅から見られるサービスがあれば大変便利だと思う。

委員：

単行本で西東京だけが持っているものがあればやる必要があると思いますが、どこにでもあるものは、西東京の図書館が行う必要はない。

2016年には、国会図書館の一部の資料が個々の図書館で見られるということになる。

館長：

これらのことを考えると、西東京市で電子化するのは行政資料ということになるのかと思います。

委員：

学校での「調べ学習」は、生徒たちが不得手としているところだと思いますが、古い地図等が見られれば良いと思う。また、西東京の産物等が調べられれば便利であると思います。

○館長：

現在でも、質問があれば対応できます。ただ、調べられることが浸透していないことが問題かもしれません。

○委員：

公文書に関しては、どんどん電子化していけばよいと思います。

○委員：

生の資料があれば、それをどんどん見せるのなら電子化はいらないということですか。それとも電子化で公開する必要があるのですか。

○委員：

行政資料を電子化することは必要であると思います。それをすることだけでも大変なことだと思います。

○委員：

・「電子書籍」の現場から見える出版界の特性（報告）

○会長：

それでは、本日は閉会させていただきます。次回は、1月24日（木曜日）定例会になります。図書館として電子化できる可能性のあるもの、あるいは電子化してほしいものを持ち寄り、要望等で資料等があれば共有しあうということによろしいでしょうか。

お疲れさまでした。